平成２５年度　第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２５年１０月２９日（火）

【鉄矢会長】　　では、平成２５年度第３回小金井市はけの森美術館運営協議会、既に開催しておりますけれども、次第の１、展覧会「コレなんだ？佐藤慶次郎の作った不思議なモノたち」展の観覧を終えて、次第２からという形で、運営協議会を続けたいと思います。では、配付資料を確認します。次第、事業報告、横長の予算要求の概要、佐藤慶次郎のチラシ、親子で美術館を楽しもう！「おはなしのへや」開催というのと、佐藤慶次郎の作品リストとそのワークショップのご案内です。

では、次第２に入りまして、展覧会及びワークショップについて実施報告ということで、事務局のほうからお願いします。

【荒木学芸員】　まずは、前回の協議会からきょうまでの間に終了した事業から報告したいと思います。

まず、所蔵作品展「旅する画家」は、７月２３日から９月１６日までの夏休みを中心とした期間に開催しました。そして、内容等については前回までにも報告したところですが、最終的な入館者数は合計で１,０３９人でした。これは小学校の鑑賞教室２校を含めています。児童１９５名を含めて１,０３９人となっています。

今年のこの展覧会で特に注目されたのは、昨年の夏休みの所蔵作品展から小中学生無料観覧というのを行ったのですが、会期の日数は多少異なりますけれども、昨年の所蔵作品展では、９４名でした。これが今年の所蔵作品展では１８０名の小中学生の入館者がありました。特に中学生のグループでの来館が増えたようです。動機は、宿題であったり、何となく来たという方を含めて明らかに増えていました。昨年の小中学生の入館者数も、その前の夏休み期間の所蔵作品展に比べて約１.５倍に増えていたんですが、それがまたさらに倍になったということで、確実に周知されてきているのではないかと思います。小金井以外の他の周辺市の中学生もかなり来ていたようです。

この終了した「旅する画家展」の関連事業を、今、映像でご覧いただいています。関連事業は３つ実施しました。しかし前年に比べて参加申し込みがちょっと少なかったようなことがあります。ただ、これは当館だけではなく、都内の周辺の美術館のわりと全体的な傾向だったらしいです。

美術館での「模写・スケッチ曜日」については、特に申し込み制限もなく、来館した人が自由参加のものです。開催する年によっても非常に差が出ています。今年は合わせて５組の参加がありました。

（２）の『あかり』で旅する美術館、これは美術館の作品や会場のための照明に関してのワークショップということで､小学校５年生以上と少し年齢は高めにして募集しました。応募もちょっと少なかったんですけれども、参加数は６名となりました。

多目的室に照明用のレールができたことがあって、この部屋で光の仕組みの話を聞いて、照明の当て方を実際にレクチャーしていただいてから、実際に展示室で、参加者も一緒に質疑しながら、実演するという形でデモンストレーションを行いました。参加者の方は、ここちょっと暗いねとか、ここもうちょっと明るくならないでしょうかとか、そういった質問も出る雰囲気でした。

【鉄矢会長】　ルックスの計測も参加者がしたんですか。

【荒木学芸員】　計測はスタッフだったんですけれども、参加者にはその数値を見せたりしながら、油彩に適した明るさですとか、紙の作品に適した明るさ、それが両方同じ壁に並んでいる場合どうすればいいかといったかなり突っ込んだところまで話が出ました。

【鉄矢会長】　そのときあわせて、勉強するときの明るさとか、食べ物の明るさとかも一緒に？

【荒木学芸員】　最初のレクチャーでは、まず私たちが一般に使っている光とはという話から入りました。参加者の方からも、今までの美術展覧会の会場での光についての疑問とか、それこそ何でこんなに暗いんだろうとか、何で反射しちゃったりするんだろうとかという疑問をかなり解決してもらえたようでした。

【上田委員】　どのぐらいの年齢層の人たちなんですか、参加したのは。

【荒木学芸員】　高校生以上でした。

【鉄矢会長】　高校生がほとんどということですか。

【荒木学芸員】　高校生が１名と、あとは大人でした。

【鉄矢会長】　６０代？　４０代ですか。

【事務局】　３０代、４０代、大学生もいて、ばらばらでした。

【鉄矢会長】　大学生は学芸員志望みたいな方ですか。

【荒木学芸員】　レポートを書きにきたみたいな感じでした。ワークショップという事業について関心があるみたいでした。

あかりのワークショップは人数は少なかったんですけれども、参加者の満足度は非常に高かったと思います。また人数が少なかったからこそ、展示室で実際を見ましょうという展開にできたと思います。それがかえってよかったんじゃないかと思います。

「旅する画家」の次のイベントは、「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでつくる夢の旅」です。当館では所蔵作品展で、ほぼ毎回行っているコラージュのワークショップでした。人数がちょっと少なく４名でした。コラージュのイベントは、本当に行う時期によって、市報に情報を掲載したらすぐ定員近くまで迫ってしまうときもあるのですが、今回はなぜか５名の申し込みで、非常に振るわなかったです。

【鉄矢会長】　広報は変わらず。

【荒木学芸員】　全く変わりません。なので、これは開催日の設定のタイミングか何かあるのかということは､我々のほうでもうちょっと分析しないといけないと思っています。

【鉄矢会長】　そうですね。夏休みの宿題ができるよと書いてあると、みんな来ちゃうわけで。

【荒木学芸員】　今年も宿題応援という点は、観覧の小中学生へのワークシート配布ということを含めて、かなり前面に出しています。

コラージュについては、今回は少なかったんですけれども、だからといってすぐに何かほかのものをということではなく、もうちょっとテーマ性や、目的があるもの、例えばカードをつくるとか、前にやったブックカバーをつくるといった、ただコラージュというのではない点をもうちょっと強調した形をもっと進めたほうがいいのかもしれないというのが、我々のスタッフの間で出てきた感想というか、検討点です。

ここまでが所蔵作品展「旅する画家」の内容になります。

あと、現在の佐藤慶次郎展の前に、１つ既に終了した事業がありますので報告します。

【中村学芸員】　２ページ目にあります、親子で美術館を楽しもう！「おはなしのへや」というイベントを開催しました。こちら資料のほうも、黄色い色紙がこのイベントの表紙になります。１０月１９日に開催しました。

昨年度から運営協議会でも議題に上がっていました、こごうちぶんこから小金井市に８３０冊近くの絵本が寄贈されたということで、この部屋備えつけの棚の中に入っております。

それにあわせまして、今回「おはなしのへや」というイベントを開催しました。狙いとしましては子連れの方々、今まで美術館になかなか足を運ぶことができなかった人たちへ

アピールして、お子様を預けて展覧会を見ることも可能ですということで、ＰＲをさせていただきました。

初回ということで、試験的にやっていこうということで行ったんですけれども、参加者は３１名で、お子様が１８名、大人の方が１３名ということで、多くの方に参加していただきました。

このうち２家族が展覧会のほうにも来ていただきました。ただ、今回の佐藤慶次郎展は動くものなので、小さいお子様も集中して見るということで、お子様を預けないでお子様と一緒に鑑賞するという家庭が多かったです。ですからお子様を預けて展覧会が見られるということについてはあまり認知されていませんでしたし、利用もありませんでした。

今後、展覧会ごとにそういったニーズも変わってくると思いますので、１回では変化がまだわからないところがあります。回数を重ねることで、より利用していただけるシステムづくりをしていきたいというのが今回の反省です。

写真を見ていただくとわかるように、結構にぎやかです。こちらの多目的室で開催したんですけれども、パネルシアターで音楽を一緒に入れた形でお話をすると、みんな一緒に手をたたいたりとか、真剣でした。

美術館に対して敷居が高く感じる方にとって、より親しみやすさを感じてもらうために行いたいイベントです。次回は１１月９日にやるんですけれども、回数を重ねて効果でしたり、内容を変化させていって、良いイベントにしていきたいと思っています。

【山村委員】　ここで読み聞かせされているのはこごうちぶんこの方が。

【中村学芸員】　こごうちぶんこ・ことりのへやの方々が、ボランティアでいらっしゃいました。ただ、こごうちぶんこが主催ということではなくて、あくまで美術館側が主になって、協力という形でお願いしました。

【山村委員】　何人ぐらい読み聞かせの講師はいらっしゃるんですか。

【中村学芸員】　こごうちぶんこの方は当日５、６名の方が来ていただきました。小さい子がいましたので、スタッフの方は多く来ていただきました。

【上田委員】　このこごうちぶんこのワークショップを私、見に来たんですけれども、全体的にすごくいい内容で、楽しめるワークショップになっていたと思います。ただ、何でこれを美術館でやっているのかということが、あんまり美術館と関係なかったかなという気もしました。これはアートのワークショップという形で今後進めるのではなくて、託児場所という形で進めようという意思というか、計画なんでしょうか。

【中村学芸員】　　女性の方にとって、美術館に来ていただけるきっかけになるようなワークショップということで今回開催したんですけれども、もう一つ創作系のワークショップというのも企画していまして、やはりこういうふうに絵本をたくさんいただいて、絵本を使った、例えば絵本に出ているような内容を自分たちでもつくってみようとか、そういった創作系のものもいろいろ広がっていくと思いますので、そういう創作系を行うときには実際に講師を立てて行う形で、しっかりした形のワークショップをするというふうに向こうの団体ともお話をしています。まだ予定ですけれども、来年度はそういった創作系の、美術にもっと寄り添った内容のものも行う予定です。

【鉄矢会長】　　上田委員、美術館としての位置づけですよね。この活動の位置づけをどうするか。

【上田委員】　　どちらかに寄る必要はないかと思うんですけれども、託児場所という意味合いとアートのワークショップという意味合いと、両方持ったワークショップで構わないと思うんですけど。アートのワークショップということであれば、こごうちぶんこさんたちの活動の内容と、たしか本をいっぱい持っていて、読み聞かせをするというふうに聞いているので、こごうちぶんこさんの活動とアートのワークショップというのが合うかどうかもこれからもうちょっと詰めていかなきゃならないところだなというふうに感じました。

　あと、託児場所としてはすごくいい、期待が持てる試みだと思うんですけれども、自分の子どもが小さかったころのことを思うと、お子さんと一緒に観覧できますよと言ってもらうよりも、お子さんはここに置いてっていいから、ゆっくり見てきてと言ってもらったほうがすごくありがたかったと思うので、ちょっとだけでも自分だけの時間を持って、ゆっくりアート鑑賞できるんだったら、今までちょっと興味ないなと思った作家でも、せっかくだから見たいと思いますし、それをきっかけにその作家を好きになったりもして、世界が広がるかなと思うんです。だから、子どもと一緒に見られるというよりも、子どもはここに置いてっていいよという居場所があるだけでも、美術館として需要に期待が持てるというか、若いお父さん、お母さんに親しんでもらうきっかけになるような試みかなと思うんですが。

【山村委員】　　ちなみに府中の例ですと、保育課のほうで美術館と連携してやっている事業がありまして、初めて美術館という名前で保育課のほうで募集して、結構人気があって、２時間ぐらいのワークショップなんですけれども、２０人定員のところにその日のう

ちに定員に達しちゃうという、４０人か５０人ぐらいの応募がある。年５、６回やっているんですけれども、それは本当に赤ちゃんとか、まだ１歳とか、抱っこしながら展示室を回って、学芸員が解説をするというので、保育課の保育士さんたちが何人か来て、一緒に子どもをあやしたりとかしながら、常設を見て回るというのをやっています。

保育課が主体に。それは年間を通して１００人ですが、応募が多いものだから、来年これを倍にしてくれと言われているんですけれども、そこまではできないという状況です。

【村澤委員】　　山村委員、今の事業というのはその時間帯というか、そのイベントのときは貸し切りになるんですか。

【山村委員】　　ほかの方がいらっしゃる中で平日の午前中とか、今度、平日の午前、午後やるんですけれども、比較的人が少ないところの常設室に限定してやっています。

事前に表示とかアナウンスとかを少し流して、多少子どもさんが騒いでもよいように周知しています。保育士さんと学芸員が一緒にやってくれて、お母さんにゆっくり見ていただくというのは本当にニーズが高いです。

【村澤委員】　　その点からいくと、こごうちぶんこというところは保育士さんとか、そういう資格を持っている方はいらっしゃるんですか。

【中村学芸員】　　資格を持っているメンバーの方もいらっしゃいます。

【村澤委員】　　そうなれば安心というか。

【山村委員】　　だから、小金井の中にもそういうところもあるでしょうし、図書館との連携とか、保育課との連携とか、美術館は美術館で、学芸員さんがやる領分というのもあるだろうから、そこはうまくすみ分けるというか、協力するほうが今後の展開にはいいんじゃないですか。

【吉川係長】　　託児というと、語弊があるかなというのがありまして、確かにお子さんを預かる部分もあるんですけれども、そもそもここは、美術館であって、ここに市民の方たちが親しんで通ってほしいということがあるんです。

その中に、お子さんが小さいうちから美術館に親しんでほしいということのきっかけとしてこの事業をやっているので、その目的の中に、先ほど上田委員がおっしゃったように、お母さんだけ見に行って、子どもは置いているという見やすい環境というものも含められますし、こごうちぶんこに参加していただいているというのは、市民参加を理念としている美術館ですので、ボランティアさんを一から育てるということが今の体制では難しいものですから、あえて市民で活動している方と美術館と協力して、ひとつ、ひとつやってい

こうという意味合いも含めてこの事業をやっています。

ですから、託児だけではないし、鑑賞だけでもないし、ワークショップだけでもなくて、複合して、今ここに来ているお子さんたちが大きくなって、そういえばはけの森美術館って絵を見られるんだよねと言って来てくれるような次世代育成の観点から、この事業はやっていきたいと思っていますので、いろいろな複合した意味でここの美術館に親しんでほしいなと思っています。

【鉄矢会長】　展覧会及びワークショップについての実施報告なんですけれども、ほかに質問はありますでしょうか。

なければ私からですけれども、読み聞かせはアートパフォーマンスの一つというふうに捉えられるものと学芸員の方々は思っていらっしゃるんですか。そこが一番大事だと思うんです。だから、広い意味で芸術だということを考えて、広い意味での美術館、多分あり方のところに書いてあるべきなんですけれども、いろいろなものをやるといったときに、そのいろいろなものの中でアートであるという認識をどこで持っているかが明快で、そのアートを見せているんだという意識を持っている文章のような感じがしなくて、最初のほうは託児とかいう話がちょっと出ていたのでもう少し。

その辺がもう少しあると、はけの森美術館は読み聞かせというパフォーマンスもアートとして認めているんだとすると、今度はもっとうまい読み聞かせの人も呼んでみるとか、いろいろなことが展開できるとおもしろいなと思いました。

それから、今回、関連事業でスケッチ曜日とか、あかりとか、コラージュをやったんですけれども、適切な参加人数ってどのぐらいの感じをイメージしているんですか。ちょっと寂しかったなという気はわかるんですけれども、適切数が大体……。

【荒木学芸員】　大体定員を２０人ぐらいとしているので、十数人とか。

【鉄矢会長】　それくらいが適切だろうと。

【荒木学芸員】　そうですね。定員いっぱいですと、スペースがいっぱいになる場合がありますので、２０人いっぱいまで申し込みがあって、キャンセルが少し出るくらいというのがいい感じかと。

【鉄矢会長】　それから、一番最初に今回中学生が増えたということで、無料だというのも強いんだと思うんですけれども、そのほかのどうして来たんだろうとか、どう楽しんだだろうとか、どうリピーターになるんだろうとかって何か拾えましたでしょうか。

【荒木学芸員】　特にアンケートというのをしたわけではないのですが、一部では市内

の中学校で美術館、博物館に行ってきなさいという宿題があったということで、はけの森を選んでくれた生徒はある程度いたようです。

【鉄矢会長】　ぜひその中学校にお手紙したりすると、その先生はそういうことをもう１回やったらいいなと思うと思うんです。コミュニケーションだと思うので、もしその中学校が突きとめられるんだったら、ちょっと一筆、そこの生徒たちがこんなにまじめに何かやっていたようだというのをお知らせするといいなと。リピーターになり得そうな気がするんですけどね。

【荒木学芸員】　ほかの市からの中学生も結構大勢で、中学生になると、１人とか友人同士で、少し遠くても電車に乗ってでも来ますので。近隣で美術館を持っていない町の方が利用されたと聞いています。

【鉄矢会長】　ほかにご質問、ご意見等ありませんか。

【平岡委員】　ひとつだけ。今ちょっと話が出たんですが、「旅する画家」の件なんですけれども、きょう欠席の指導室長の河合委員のほうで、校長会でＰＲをしていただいたということもございます。

あと、ワークショップはちょうどこの８月の２週間ぐらいの市内でのイベントの集客というのがほかの事業でもなかなか、ちょうどお盆と重なる時期で、難しい時期だなという感想は持っております。来年以降、何らかいい形でいければなというふうには思っているところであります。

以上です。

【鉄矢会長】　ほかにございませんでしょうか。

では、次第の３番目の平成２６年度予算の前に、現在開催中の事業等、ここの残りのものをさらっと。

【荒木学芸員】　現在開催中の佐藤慶次郎展につきましては、先ほど皆さん実際にごらんいただきました。この前の第４日曜日、１０月２７日に最初の関連ワークショップの１回目を行いましたので、そちらについて簡単に報告します。

今回はワークショップを３回行うんですが、そのうち２回をＮＰＯ法人アートフルアクションに企画協力をいただいて、一緒に運営をしました。今回、レインスティックという楽器、紙の筒に針金をしたものにビーズを打って、その針金とビーズが当たるといろいろな音がするという楽器なんですけれども、紙の筒と針金とビーズ、あとそれにふたをする紙、それでシンプルに作れるのです。みんな同じ材料を使うけれども、つくる子供によっ

て、針金の曲げ方とか、ビーズの個数とか、大きさとか、そういったもので一つ一つ音が違ってくるというところで佐藤慶次郎の作品との共通性があって、シンプルなんだけれども、個性が出るというところで大変適した工作だったと思います。

今までは小学生以上ですとか、中学生以上ということで年齢を設定したんですが、今回は５歳児からやりました。今回のワークショップの中で一番申込人数が多かったです。１２０センチの紙の筒にまず最初に飾りつけをして、これが完成したものの映像です。これをひっくり返すとビーズがさらさらっと落ちて、針金に当たって音がするというものでした。

あと２回のワークショップが予定されています。また終了後にご報告したいと思います。

それから、小学生４年生の鑑賞教室をこの展覧会でも行っています。既に２校は、スケジュールの都合で前の「旅する画家」展でやりました。

残り７校のうち、今６校終了しております。今、それを映像でご覧いただいています。学校によって、事前に作品を見せているかどうかというのはわりとまちまちなのですが、それでも実際、事前にビデオなどを見たという場合でも、実際に動いている作品を見ると、真剣に見ています。次の映像は、２階の音の出る作品で、クラス全員で手をつないで体験しているところです。

今回、こういった体験ができるということもあって、小学校４年生のリピーターが非常に多いです。１人で来た生徒もいますし、あと家族と一緒に、あるいは友達同士で来ています。音の出るオブジェを触るというだけではなくて、１階もゆっくり見てよかったと。こうしたリピーターがこれからも期待できるのではないかと思っています。

３番の今後の事業予定ですが、先ほど出ました「おはなしのへや」の第２回を１１月９日に行います。前回の反省を踏まえて、運営の仕方に工夫していく予定です。今後の運営とプログラムづくりをどうするかということを相談していく予定です。

佐藤慶次郎展が終わってからしばらく休館期間に入ります。その間に、多目的講義室オープン記念ワークショップ第二弾として、「水彩で富士山を描こう（仮）」というプログラムを予定しています。７月に開催したオープン記念ワークショップが非常に好評でした。材料費がかかるにもかかわらず大変応募が多く、中学生以上が対象ですが、大人の方の応募が多かったので、また同様に水彩で、アニメーション背景美術家の方にお越しいただいて、前回は雲でしたが、今回は富士山ということで開催します。

その後になりますが、３月には所蔵作品展を開催する予定です。これは大まかな日程は

決まっていますが、内容など詳細が決まっておりませんので、今後また報告します。

ここまでが２５年度の事業予定です。

２６年度につきましては巡回展および、企画展、展覧会と関係のない単独ワークショップなどとなります。所蔵作品展と企画展を年間スケジュールとしては予定しておりますが、内容についてはまだ検討中のところもありますので、大まかな時期だけを挙げさせていただいています。

【鉄矢会長】　ほかにございますでしょうか。では、４番目、「その他」に入ります。この資料にある「その他」からでよろしいでしょうか。

【中村学芸員】　これは当館の自主事業じゃなくて、連携事業ということで、「タマのカーニヴァル」のイベントの報告をしたいと思います。

前回も説明させていただいたと思うんですが、こちらは５市共同事業実行委員会が主催のイベントとなっておりまして、当館でも夏休み、８月、９月とワークショップを行いました。今見ていただいている写真ははけの森美術館ワークショップということで、「夏休み・物語つくりワークショップ　おはなしきもだめし」というワークショップです。

このワークショップは、人形使いの方にまずお話していただいて、こういった美術館の外の緑地に材料をとりに行きまして、石とか枝とかをとって、それを組み合わせて操り人形をつくって、お話をやったりとか、歌を歌ったりという形で、子どもたちが発表するというワークショップになっています。この映像のような感じでみんなで操りながら歌を歌ったりしました。３０人ぐらい５市の子供たちが集まってきました。

続きまして、「第５回タマのカーニヴァルワークショップ」です。

タマのカーニヴァルワークショップでは通年でワークショップを行っておりまして、これは１年を通して２月から行って、２月に集大成としてパフォーマンス上演を行います。第５回では太鼓づくりを行いました。映像のように、こういう形で太鼓のパーツの輪っかを編んで、筒のところに色を塗るというのを行いました。それとあわせて、まだ子どもたちの人間関係が出来ていない部分がありましたので、その関係性を深めるために公園に行ってグループ毎に考えたいろいろな遊びをしました。参加者は８２人。午前と午後に分けて開催されました。

今後はタマのカーニヴァル通年ワークショップの第９回から第１２回が、当館の休館期間中に行われます。それとあわせまして、はけの森美術館ワークショップも開催予定となっております。最後に、③にあるんですが、「タマのカーニヴァル」の集大成としまして、５

市共同事業の「タマのカーニヴァル」の展覧会ということで、まだ内容は細かくは決まっていないんですが、３月の約２週間行う予定です。会場はこちらの美術館で行います。

以上です。

【鉄矢会長】　２５年度の美術館の予定に入ってないものですか、これは。

【中村学芸員】　ここは自主事業と連携事業ということで分けた形になっております。

【鉄矢会長】　だとすると、今後の事業予定の中に入ってないものですね。

【中村学芸員】　そうです。ないということですね。

【鉄矢会長】　これでいくと、こちらの最初にいただいた事業のほうは美術館がやるよと言って、その他のほうは美術館はやらないよというふうに見えるんですけれども、そういうわけじゃないんですね。

【中村学芸員】　そういうわけではないです。

【平岡委員】　資料としては、その他のところは協力連携という立ち位置で、下の美術館がかかわるものについて入れていただいているのかなと思っておりまして、美術館が完全な主催になるというものについて、その前段で入れさせていただいたという、今回はそういう資料のつくりになっています。

【中村学芸員】　前回、そういった、どちらが主催かというのがわかりづらかったというご指摘がありましたので、今回はそういう形ではっきり分けております。

【山村委員】　４番は連携事業で、共催ということですか、それとも。連携というのはどういう意味ですか。

【中村学芸員】　小金井市が主催の中に入っていますので、共催です。

【鉄矢会長】　小金井市が入っているんですね。

【吉川係長】　はい、小金井市が入っています。ここは市立の美術館ですので、一緒にやっていこうということで入っております。

【鉄矢会長】　こういう連携事業をしていくときに、注意点というのはどういうふうに美術館は考えていらっしゃいますか。だから、もし何ごとかが起こっても、守るべき美術館像が壊れないようにするためには、何に注意しようかなと学芸員の方々は考えていますか。

【薩摩学芸顧問】　それは単純に言うと、学芸員が反対していることはできないということです。貸しスタジオじゃありませんし、期間中の会場管理をするのは学芸員ですし、鍵をあけるのも学芸員ですし、鍵を閉めるのも学芸員ですし、ほかの管理も学芸員ですか

ら、学芸員が、例えばこれは危険だとか、ふさわしくないとか判断するのもできるんです。

【鉄矢会長】　　その認識でよろしいですね。その答えが聞きたかった。そこは学芸員がよく全体を把握していただきたいです。

【荒木学芸員】　　これも企画段階から我々が入って、運営等をしながら進めています。

【鉄矢会長】　　わかりました。その辺が多分、私どものほうで、連携事業と言っていて外されるとちょっと見えにくいので、その位置をしっかり見えるようにしておく議事録等があるほうがいいなと。

【薩摩学芸顧問】　　市の美術館ですから、当然なんですが、ちょっと役人的な言い方をすると、責任を持つのは美術館ですから、連携している相手の団体じゃないですから、こちらが責任を持つ以上、こちらは危険なことはできません。

【村澤委員】　　１点感想というか、質問なんですけれども、１番の終了したもので、８月７日実施ということで３０人と。それに対して８月の何日かにやった美術館主催のワークショップは、１ページ目の（１）は４日間で５名ですが、この動員力というのはその辺のところでは同じ時期で、さっきお盆の時期かなとかいうお話もありましたけれども、その辺はどういう募集をしたのかというところは一応検討しておいたほうがいいのかなと思うんですけれども、いかがなものでしょうか。

【薩摩学芸顧問】　　山村委員に伺いたいのですが。最近、府中市美は、８月の人の入りというか、動きはどんな感じですか。

【山村委員】　　うちのほうは毎年８月、要するに学校が休みになって、夏休みに入っているときは必ず子供向けの展覧会をやっていますし、１階での教育普及事業もやり、この部屋は夏休み子供ワークショップという形でやって、それからまた鑑賞教室をやっている中では、中学校の先生に宿題に美術館課題を出してもらっているんです。ということで、比較的夏はあそこがこういう子供向けのことをやっているんだよということで、だんだん伸びていますね。

最初は夏休み子供向け展覧会は６,０００人ぐらいだったんですが、今は１万２,０００人ぐらいです。ここ七、八年の中で大体枠を決めて、ターゲットを絞ってやっていく中で、ちょっとずつ伸びてきたということですね。今年は勾玉をつくろうというワークショップをやったんですが、材料費３００円で石を削っていく勾玉ワークショップ。これは７回か８回ぐらいやったんですけれども、いずれも１回に５０人超えていましたね。多いときは１００人ぐらいで、４時間ぐらいで１００人ですから、うちのほうも３０人が限界なので、

４交代ぐらいしないとできなくて、それは後で文句を言われましたけど。だから、当たる場合と当たらない場合とあるんですよ。

今おっしゃったように、当たらなかった原因というのはいろいろあると思います。必ずしも一つの原因じゃないと思います。ただ、自分たちで何人ぐらいの目標で入れようと思って、その目標に達したのか達しなかったのか、何が悪かったのかということは常にフィードバックして、いろいろまじめに真剣に検討する必要はあります。当たればいいというものでもないですが。

【薩摩学芸顧問】今、上野は夏は人が減っているんです。１つはやっぱり暑いからじゃないかと。大学美術館は、遂に今年は８月全面休館しました。

それからもう一つ、ワークショップは美術館だけじゃなくて、いろいろなところが、いろいろやるんですけれども、傾向としてはっきりしていることは、ただのものよりも材料費を取ってもいいから、ある程度レベルを上げたもののほうが人が来るんです。どうしても日本人はただを信用しないのか、少しでもいいから取ったほうが応募状況がいい。それから当然のことながら、キャンセルも少ないということがはっきり出ています。どうもただというと、かえって集まりが悪いというのが、うちの大学の傾向ではあります。

【山村委員】　どこもそうだと思いますよ。ある程度３００円とか５００円とか、５００円ぐらいがいいのかもしれないなというのを感じでは持っています。もちろん１００円でも足りますけど。ただ、勾玉というのは石で、自分で削ったものを持って帰ってということがあるものですから、ちょっとしたアクセサリー的なところで、あと持って帰ってそれを大事にするというのがあるから、そうすると５００円ぐらいまでは大丈夫ですね。

【平岡委員】　日にちの話が出たので、私のほうも少し。それだけの問題では多分ないとは確かに思っているんですが、この課に来る前に、ほかのところでも夏じゃないとできない事業をやっておりまして、８月の第２週から第３週にかけては、どうも小金井の中でも人が大分少ないなという印象を受けるぐらいの雰囲気はあるなと正直思っています。

あと、子供たちをターゲットにした事業の場合は、逆に休みの日よりも、平日のほうが夏休みは来ることが多いなという印象もあります。美術館のターゲットとしては、ワークショップですと子供さんだけではないので、お休みのほうが向いているのかなという思いはあるんですけれども、特に第２週、第３週あたりのお盆の時期というのは、会社が休みになると、家族総出でまとまって出かけてしまう時期かなというふうにも思っているものですから、ちょうどいいような企画とちょうどいいような場所が、何回か模索するうちに

見つけられればいいんじゃないかなという希望は持っているところであります。

【山村委員】　今まで一番成功した例というのはどうですか。覚えていますか。

【荒木学芸員】　休館期間中に展示室で行った「はけのワークショップ市」はよかったです。はけ近隣で毎月開催されているはけのおいしい朝市においても、販売だけじゃなくワークショップをやっている形です。それに学んで、朝市に関わるアーティストさんにも講師できてもらい、数本のワークショップを同時開催しました。当日は朝市をやっている日でもあり、また、はらっぱ祭りを武蔵野公園でやっている日でしたので、延べで２００人の来館がありました。

【山村委員】　それはワークショップで２００人ですか。

【荒木学芸員】　そうですね。そのときは展示をしてなかったので。

【山村委員】　それは何日間ぐらいで。

【荒木学芸員】　１日です。朝市に行って買い物して、はけの森美術館にそのまま行くか、あるいははらっぱ祭りへ行ってから美術館に来たりということでした。１時間きっかりというプログラムではなくて、１時から４時半までとか、そういったわりと長時間で人が自由に出入りするような形にしたのがよかったのかもしれません。

【鉄矢会長】　はけの朝市さんって、いろいろなグループが集まって、市をやっている人たちが定期的にやっているので、そこにいるファンが確実に来るんですよね。

【山村委員】　それはお金を取って、こっちでもお金を取って？

【荒木学芸員】　そのときは無料でした。無料でできる範囲のものをやりました。朝市では取っても。

【鉄矢会長】　朝市さんにいる人たちはお金を取ってやっているんですね。

【荒木学芸員】　両方やっているみたいですけれども。その中のプログラムで無料でやっていたものを、こっちへ持ってきたものもありましたし、あるいはこちらで材料費を負担したものもあります。

【山村委員】　ということは、やっぱり連携とか、相乗効果とか、そういうのと。

【荒木学芸員】　武蔵野公園のイベントなどと合わせるのが効果があるんじゃないかというのは、前々から考えています。

【山村委員】　やっぱり規模が小さいし、宣伝力とか、情報力ということを考えると、何か一緒に打ったほうがいいんでしょうかね。

【中村学芸員】　あとは周りで何かイベントをやっている折に、そのついででという機

会を狙うのがいいのではないかというのもありますが、ここのためだけにというのではちょっと弱いところがありますよね。

【上田委員】　　むしろできるなら、そうやって不特定多数の人がいっぱい来る期間に、さっきスライドで見せていただいた、ここでつくったコラージュの作品とか、雲をかいたのがありましたね、その作品をちょっといい感じに額装したのを並べておいて、こんなワークショップもやっていますよと言ったら、これ、いいなと思って足を運ぶ人がいるかもしれないなと思いました。

【山村委員】　　今の話に一言だけ言わせていただくと、さっき言ったように、府中のほうのリピートの工夫は、毎年この時期になったらこれをやっているとか、それから今おっしゃったとおり、連携で朝市みたいな大きなイベントがあって、そこのポスターの中に入っているとか、つまり行くほうの立場から考えると、この時期にこれをやっているとか、こんな大きなイベントのときに時間を使って行ってみて、ついでにこっちへ行ってみようとか、何か情報が入るような、常に美術館に注目している人というのはそんなにいないわけですから、あんまり派手でなくても、何となくこの時期になったらこれがあるなという、きょうは暇だし、子供を連れていこうかとか、そういうのを考えて学芸員さんもイベントを考えていかれたらと思います。

【平岡委員】　意見交換のときに申し上げればよかったんですけれども、今回の佐藤慶次郎展の部分で、広報的な部分をやっておりますので、若干ご紹介をさせていただくと、先ごろの科学の祭典のとき、鉄矢先生のところで出展されているところに佐藤慶次郎のＰＲのＤＶＤを流していただきました。パンフレットも置かせていただくという広報協力をお願いさせていただきまして、ありがとうございました。

それとあわせて、ＪＲ武蔵小金井駅に、今、美術館を中心として、パンフレットスタンドを改札付近に置かせていただいております。あと、ＤＶＤのＰＲ版ということで、市役所の第二庁舎１階の風除室のところにＤＶＤを、平日のみなんですが、今週いっぱいか来週途中ぐらいまで、スタートしてから流させていただいていて、若干音も出る仕様になっているので、少し足をとめていただいている方もいらっしゃるので、そういった広報に今回ちょっと力を入れてみました。

また、ちょっと過ぎてしまったのですが、Ｊ－ＣＯＭが内覧会に取材に来ていただきまして、地域の帯番組をやっているんですが、そちらで取り上げていただいて、取り上げていただけるということでお話をいただいておりますので、そういうＰＲも少し頑張ってみ

ましたので、結果は全部出てみないとわからないんですが、ちょっとご報告までさせていただきました。

【鉄矢会長】　やっぱり見ていて動くものっておもしろいですね、感想としても。要するにもう一度行きたいぐらいですもん。これって写真もカメラもいけないんですか。

【荒木学芸員】　撮りたくなるのはわかるんですが、特にカメラよりも映像、動画を撮ろうとすると、作品の場合は独占してしまうことになって、ほかのお客様のことを考えると、全面禁止せざるを得なかったです。

【鉄矢会長】　「デザインあ」という展覧会、あれは多分、動画でみんな撮りまくったから、だんだんウェブに載っかっていったのが相乗効果なんじゃないか、エンタメで。これなんかはもしかしたらそうやったら、みんなどんどん載っけて、おもしろいよ、おもしろいよというので、だからもしかしたら時間単位で、お昼の一番お客さんが少ない時間の１時間は撮影はできますとかいってタイムサービスするとか、そのかわり三脚はだめですとか。

【山村委員】　これは禁止になっていると言われているの？　向こうのほうから。

【荒木学芸員】　ご遺族は、広がってくれればうれしいというご意向。今回についてはどういうお考えかがわからないということがあります。主催側はわりとこれはクオリティーのほうが欲しいので、素人撮影には懸念があります。

【上田委員】　ちょっとばかなことを言うかもしれないんですけれども、磁力とか大丈夫なんですか。というのは、観覧に来たときに子どもが展示のボックスというんですか、下をふわっと見ちゃったんですね。フェンスではなく、下をさわっちゃったんですけれども、もちろんそれはだめなんですけれども、それでも磁力が狂ってしまって、影響があるという説明をいただいて、ビデオカメラで間近で撮るとかって大丈夫なんですか。

【平岡委員】　撮影自体はできるのではないかと。

【上田委員】　そうなんですか。済みません、機械オンチで。

【平岡委員】　電磁波か何かのことでご心配されているんですよね。

【上田委員】　はい。

【平岡委員】　そうですよね。多分、大丈夫ではないかと。

【荒木学芸員】　動力というか、電力は多分思われているよりも本当に、それこそ電池で豆電球をつけるぐらいの、わずかな電力ですので、それほど気にすることはないです。ただ、音の出るオブジェについてはかなり電流が通るということがあるので、ペースメー

カーご利用の方にはちょっと配慮をしています。

【村澤委員】　　失礼ですが、その下でＤＶＤを１,３００円で売っていましたけれども、売れているんでしょうか。

【鉄矢会長】　　どうですか。

【村澤委員】　　買っていった人なんていましたっけ。

【荒木学芸員】　　います。もう３０冊ぐらい出ています。ＤＶＤがついて１,３００円ということで売れる。カタログとしては１,３００円前後というのはあるんですけれども、ＤＶＤをつけたというところで。

【村澤委員】　　ＤＶＤは動いている映像が。

【荒木学芸員】　　もちろん。後ほどお持ちします。２０分の映像が入っています。あと解説もありますので。

【上田委員】　　それをネットで流すとあれだということで。

【荒木学芸員】　それはちょっと。作品を撮影されたほかの方が公開について許可をとって、ＹｏｕＴｕｂｅにアップロードしている方もいらっしゃいます。それは本当にすごい凝った映像なんですけれども。

【鉄矢会長】　　それがシェアされるといいですね、どこかに載っかっているんだったら。「デザインあ」展の学生の盛り上がり方というのが異様な感じがしましたよね。

　ありがとうございます。　これで第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会を締めさせていただきます。これで閉会いたします。

――　了　――